

## 言語発達障害学演習

[演習] 第2学年 前期 必修 1単位

《履修上の留意事項》この演習は3グループに分け、各教員がローテーション形式で同時開講する。

《担当者名》○小林健史 kobaken@hoku-i-ryo-u.ac.jp  
橋本竜作 辻村礼央奈

### 【概要】

「言語発達障害学」で学んだ知識を基礎としつつ、事例に合せた適切な検査の選択と実施、それに基づく訓練目標の選択と訓練の実施という一連の流れに関する基礎を培う。とくに「言語発達障害学演習」では、収集する情報の選択、発達質問紙や各種検査に基づく評価を中心に、検査の背景にある理論的枠組みと、結果の解釈のポイントを学ぶことで支援のヒントを得る観察眼を養う。

### 【学修目標】

#### [一般目標]

言語発達障害児や養育者に対して適切な支援を行うために、各種検査の実施を通じて言語発達障害に関する科学的知識を整理し、評価技術、基本的な支援プログラムの立案能力を身につける。

#### [行動目標]

1. 各種検査や評価で用いられる用語を理解し、理論的枠組みを説明できる。
2. 各種検査をマニュアルに沿って実施できる。
3. 検査中の反応を適切に解釈できる。
4. 各種検査のプロフィールを作成し、適切に解釈できる。
5. 主体的にグループワークに参加する。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	ガイダンス 発達質問紙	生育歴の聞き取り、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、津守-稲毛式精神発達診断、KIDS乳幼児発達スケールなどの実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
3 ) 5	発達検査	新版K式発達検査2020の実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
6 ) 8	知能検査	田中ビネー知能検査の実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
9 ) 11	言語検査	言語・コミュニケーション発達スケール(LC-R)の実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
12 ) 14	知能検査	WISC /WAIS 知能検査の実施法と解釈について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈
15	報告書の書き方	報告書の書き方の基本について学ぶ。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈

### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

### 【アクティブ・ラーニング】

導入している

### 【評価方法】

小テスト(30%)、定期テスト(筆記試験)(70%)

### 【教科書】

教科書は使用しない。その都度資料を配布する。

**【参考書】**

深浦順一 他 編 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」 医学書院 2021年  
石坂郁代 他 編 「最新言語聴覚学講座 言語発達障害学」 医歯薬出版 2024年  
田中裕美子 他 編 「レイトトーカー（LT）の理解と支援」 学苑社 2023年  
大石敬子 田中裕美子 編 「言語聴覚士のための 事例で学ぶことばの発達障害」 医歯薬出版 2014年  
大伴潔 他 編 「言語・コミュニケーションの発達の理解と支援 改訂新版」 2025年  
大伴潔 他 編 「言語・コミュニケーション発達の理解と支援」 学苑社 2019年  
大伴潔 他 編 「学齢期の言語発達支援」 学苑社 2018年  
大石敬子 田中裕美子 編 「言語聴覚士のための 事例で学ぶことばの発達障害」 医歯薬出版 2014年  
大伴潔 他 編 「言語・コミュニケーションへのアプローチ 家庭・園・学校との連携」 学苑社 2021

**【学修の準備】**

- ・参考書「クリア 言語聴覚療法シリーズ 言語発達障害」の検査に関する章などを読み予習しておくこと。（20分）
- ・演習後は資料を精読し、専門用語・観察ポイントを中心に暗記すること。（20分）
- ・演習内容によって使用する教室が変わります。ガイダンスで確認すること。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP2. 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

**【実務経験】**

小林健史（言語聴覚士）  
橋本竜作（臨床発達心理士・公認心理師）  
辻村礼央奈（言語聴覚士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関や児童福祉施設での実務経験を活かし、専門職業人として必要とされる言語発達障害及び関連する障害の特性について基本的知識を講義する。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している